令和 8 年 10 月 22 日

伊豆市議会 総務経済・教育厚生委員会 合同行政視察報告書

議員番号２番 飯田 大

日 時・場 所

令和 8 年 10 月 13 日 (火) ～10 月 15 日 (木) 3 日間

13 日 (火) 14:30～16:30 石川県七尾市市役所庁舎

14 日 (水) 9:30～11:10 石川県鳳珠郡穴水町庁舎

13:30～15:30 石川県珠洲市庁舎・仮設住宅

15 日 (木) 9:00～ 11:00 石川県羽咋郡志賀町 庁舎・復興住宅・商業施設

参加者

【総務経済委員会】浅田 藤二、尾垣 和則、波多野 靖明、三田 忠男、小長谷 順二

【教育厚生委員会】鈴木 優治、黒須 淳美、飯田 大、小川 多美子、下山 祥二、
青木 靖

【随行者】小川 正洋事務局長、土屋 洋美次長

視察目的

1. 復興計画の現状と課題・住宅跡地と地域コミュニティの復興支援
2. 能登半島地震の際の防災対策について
3. 地域防災体制の見直し・交通インフラと災害廃棄物対応
4. 震災と豪雨の被害実態と災害ボランティアセンターの活動状況 他

視察報告

1.七尾市

人口 46.010 人 総面積 318.26K ㎡

① 地震規模震度６強

② 人的被害・建物他被害

死者数（ 災害関連死 ）91 名（ 86 名 ） 負傷者重傷 39 名 軽傷３名

住家被害 全壊 536 棟 半壊 5,077 棟 一部破損 1,1503 棟

全 21,779 世帯のうち 20,977 世帯(96%)で断水

③ 地震後の対応

避難者数 2,681 人 避難所数２７ヶ所 福祉避難所 ４０人 ６カ所

発災当初の避難所は、間仕切りが足らず、プライバシー確保ができなかったが日がたつにつれて避難所設備も充実し、避難環境が徐々に改善された。避難スペースにあえて間仕切りをしない避難所もあった。（ 避難者の総意 ）

断水のため避難所（全て）には仮設トイレを設置

地域住民による炊き出し支援が行われた

④ 早急な対応策

- 道路網の早期復旧、安全確保（主要な国道や県道は優先的に）
- 空や海からの災害対応策（ヘリポートや港湾施設の確保）
- 被災地での宿泊対応（支援する側も被災地で生活できる準備を）
- 被災地の近隣の宿泊場所の確保（旅行代理店との協定）

2.穴水町

人口 6.529 人 総面積 183.16K ㎡

① 地震規模震度 6 強 津波約 1m

② 人的被害・建物他被害

死者数（災害関連死）57 名（37 名）負傷者 重症 33 名 軽傷 225 名

住家被害 全壊 387 棟 半壊 1,289 棟 一部破損 1,647 棟

200 戸が断水

③ 地震後の対応

町内避難所 54 ヶ所 3,991 名

1.5 避難所 1 ヶ所 55 名 2 次避難所 11 ヶ所 314 名

④ 復旧状況（令和 8 年 7 月 31 日現在）

避難所すべて閉鎖応急仮設住宅 578 世帯 1,072 名

みなし仮設住宅 145 世帯 305 名

上水道 3 月 20 日通水下水道 1 月 20 日復旧

電気通信 電気 1 月 28 日全通 通信 2 月 9 日全通

珠洲市

人口 9.902 人（12.728 人発災前 減少率 22,2%）

総面積 247.20K ㎡（震災後隆起により 248,92 K ㎡）

① 地震規模震度 6 強

津波痕跡高 2,7～4,5m 地殻変動 2～4m 隆起 西向きに 2～3m 変動

② 人的被害・建物等被害

死者数（災害関連死）198 名（101 名） 負傷者重症 47 名 軽傷 202 名

住家被害 全壊 1,757 棟 半壊 2,118 棟 一部破損 1,751 棟

4,800 戸が断水

③ 地震後の対応

町内避難所 94 ヶ所 7,361 名

福祉避難所 7 施設 避難所の解消 12 月 27 日

応援職員全国都道府県から 22.722 人、ほか水道協会を通して 33 団体・市内全域断水、ほとんどが停電した。
仮設トイレの避難所へ配置・道路被災状況通行止め箇所のお知らせ道路啓開・普及状況の更新
通信は不通総務省よりスターリンクが送られ避難所に配備された。
水や食料の備蓄はすぐに不足し、乳児用の粉ミルク、哺乳瓶が不足した。
自衛隊による炊き出し、入浴施設の支援が市内 4 カ所で開設された。
(1 月 6 日～8 月 31 日まで)

④ 復旧状況

公費解体
特定非常災害に指定された 半壊以上が対象となる。
5.600 世帯の半分相当
災害廃棄物の仮置き場の確保約 12.ha
陸上輸送・鉄道貨物輸送・海上輸送され処理された。11 都府県
令和 6 年 9 月能登半島豪雨
21～23 日にかけて発生 人的被害 21 人死者 珠洲市 死者 3 名 軽傷 9 名
住宅被害 全壊 9 棟 半壊 51 棟

4.志賀町

人口 15.501 人 総面積 247K ㎡

① 地震規模震度 7

② 人的被害・建物等被害

死者数（災害関連死）29 名（27 名） 負傷者重症 19 名 軽傷 97 名
住家被害 全壊 563 棟 大規模半壊 437 棟 中規模半壊 521 棟
半壊～一部破損 5,972 棟、
地盤のゆるみ、地割れ・土砂災害が広範囲に発生
町内全域の 8,800 世帯が断水（ 2ケ月継続 ）

③ 地震後の対応

町内避難所 54 ヶ所 3,991 名
1.5 避難所 1 ヶ所 55 名 2 次避難所 11 ヶ所 314 名

④ 復旧状況

令和 8 年 9 月末現在 410 世帯が仮設住民で避難継続
公費解体（令和 8 年 9 月時点）申請棟数 4,937 棟、発注棟数 4,937 棟
完了棟数 4,879 棟 98.9%完了

【所　見】

　総務経済・教育厚生委員会　石川県能登での合同行政視察での震災発災約 1,000 日後の状況を把握することができました。まず震災で亡くなられた方々へのお悔やみを申し上げます。中でも災害関連死の割合の高さに驚きを覚えました。

　高齢化が進む中で、災害発災時の自然環境の厳しさ、インフラ被災、避難先での環境の変化、通院治療の断絶等があったものと思われます。また発災後の人口減少が著しく、より復興が進まないと思えます。

半島東側の主要道路では復旧工事区間が続いていました。道路寸断による孤立集落も多数あったと報じられました。街中では倒壊家屋は見られませんでしたが家屋の跡地が目立ちました。水道管は道路わきに仮設されていました。まだ復興半ばと感じさせられました。

　視察で学んだことは、災害は「想定外」、地震に備え日ごろの訓練と備え、自宅でできること「耐震診断と補強、家具の固定」をすること、「孤立」「断水」に備える、トイレ対策、携帯用・簡易トイレシートを用意する。避難所の確認をする。家族内でのルールづくりをしておく事が大切と思いました。災害対応では指示待ちではなく臨機応変に自らが何をするべきかを考えて行動する。

　行政視察は好天に恵まれ、説明を頂いた首長をはじめ、各市議会議長、議員、担当職員、の方々には丁寧なご対応をいただき、目的を達成することができました。視察を通し得た事項をこれからの伊豆市及び、議員活動に活かしていきます